BIM/CIM 推進委員会（第14回）
議 事 要 旨

1. 開催日時：令和7年6月17日（火） 16時00分～18時00分
2. 場 所：（一財）日本建設情報総合センター ※WEB 併用
3. 議 事：
 - ① BIM/CIMの進め方について
 - ② 建築分野における検討WG（建築BIM 推進会議）の活動状況について
 - ③ 港湾分野の活動状況について

主な議論の概要は以下のとおり

（議事1：BIM/CIMの進め方について）

- 今年度の取り組み予定だけでなく、2、3年先のロードマップを提示いただいたことは、取り組みのスピード感が共有され評価できる。

- 3次元モデルの契約図書化については、3次元モデルで表現されていないものは2次元図面が残っていくことと思うが、削減できる2次元図面を探し効率化を図るのではなく、本当に必要で残さなければならない2次元図面は何なのか、という観点で進めてほしい。附属施設については、2次元図面で表現するのではなく、将来的には標準オブジェクトとして整備される方が望ましく、2次元図面を減らしていく取り組みにつなげてほしい。

- 3次元モデルを設計で活用する利点として、システムによる設計照査によって赤黄チェックが不要となることと認識している。ベンダーの照査ソフトの開発が進むよう政策を進めていただき、現場の負担軽減につなげてほしい。

- BIM/CIM 積算は、積算に関する属性情報が体系化されたことで数量と積算条件が自動で入力でき、積算の自動化に繋がる取り組みで期待している。

- IoT センサーによるデータを活用することで、機械設備の維持管理が効率化できるというのは素晴らしい取り組みだ。既存のシステムや他分野での取り組みも参考にしながら早期に実現してほしい。

- CAD 製図基準の緩和がようやく議論に出てきたことは良いこと。しっかり進めてほしい。

- 各段階でデータが受け渡されていくことで、例えば「設計の赤黄チェックが無くなる」といった物語が共有されると、現場の担当者も実感が湧く。そのような効果を実感できる具体例を示してほしい。

- 事業監理の効率化により、受発注者間でのプロジェクトマネジメントに関わる情報共有だけでなく、地方整備局や本省でも把握したい情報を収集することも容易になると考えられる。
- 3次元だけでなく、時間やコスト、脱炭素を考慮した4次元、5次元、6次元が重要となる。ロードマップに沿った取り組みだけでなく、先進的な事例もモデル的に試行してみたらどうか。
- 3次元モデルの工事契約図書化に関して、3次元が標準になることは良いことであるが、2次元図面との併存のあり方を整理していただくとともに、不要な2次元図面についても結局従来どおり提出が求められるという事態にならないよう徹底いただきたい。
- 大規模構造物以外でBIM/CIMを維持管理に適用する場合、結果的に管理する側の負担になってしまうのではという懸念がある。維持管理にどのようなデータを使用するのか等の仕分けが必要である。
- 測量の精度向上により、DXの観点で、測量時期の見直しを進めていくことは興味深い。
- 土工における3次元モデルの数量情報の活用は、BIM/CIMの検討が始まった段階から課題で、いまだ解決していないので、可能な限り早く解決の方策を示していただきたい。
- BIM/CIMの活用が数量算出や積算にとどまっているため、建設機械施工の自動化等をモデル事務所で進めるといった新規の事例の展開などもあるとよいと考える。
- 維持管理でのBIM/CIMの適用について事例は示されているが、BIM/CIMの適用範囲等についてはこれから具体的な整理をする必要がある。
- データ共有環境として様々乱立している状況であるため、一気通貫で情報管理ができるような仕組みをつくるとよい。
- 維持管理段階では、データ容量が大きな詳細なモデルを使用する必要はなく、管理者が理解できる程度で十分。目的に応じてどこまでモデルを作成しなければならないか等を整理する必要がある。
- IFCでは目的に応じたMVD (Model View Definition) を作成することで、自動的に必要な詳細度のデータを抽出できるため、参考にされたい。
- 令和5年度からの原則適用として、義務化されている段階は詳細設計と施工であり、今後維持管理に活用を広げていこうとする取組は評価できる。概略設計や予備設計への適用はさら

にメリットが得られると期待されるが、原則適用を上流側へ拡大することを考えてはどうか。

- 現状3次元モデルが参考資料扱いであることから、3次元モデルを工事契約図書化していくことは良いこと。3次元モデルに対する信頼性をどのように担保していくか、発注者が納品された3次元モデルから必要な情報を正確に得られるかがポイントになる。

(議事2：建築分野における検討WG（建築BIM推進会議）の活動状況について)

- BIM図面審査について、申請書を提出するだけで、PDF図面の整合性確認を一部省略できてしまうのか。申請者のことを信頼して申請書の内容だけを確認するのか、何かプログラムのようなもので確認するのか。

(議事3：港湾分野の活動状況について)

- 港湾施設は国土交通省で施工後、自治体へ管理を引き継がれるが、データを受け取る側のBIM/CIMやi-Constructionに対する理解はいかがか。

(全体を通して)

- 土木、建築、港湾の3分野における取組の説明と活発な議論が行われた。英国では、2025年にはISOに基づきBIMを実施する) BIM成熟度レベルの最高位「レベル3」にすることを目標としており、少なくとも現在はずでに「レベル2」に到達している。一方、日本は2次元と3次元が混在する「レベル1」の段階であるが、「レベル2」に突入しつつあると認識しており、2025年がマイルストーンになると思う。ロードマップに従いBIM/CIMを推進することで、生産性向上・品質向上や働き方改革に繋げていくことを期待している。

以 上